チャレンジ・プログラムに関する調査

－参加学生の成長と今後の課題－

高橋利行（教育・学生支援センター）

１．はじめに

「とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム」（以下、チャレンジ・プログラムとする）は、「将来、社会でリーダーとして活躍する宮大生の企画する力や実施する力を高めるためのプログラム」[1]として、学生のやる気とアイデアに基づく企画を募集し、支援を行う事業である。この事業は、平成17年度より継続的に実施されており、平成28年度は、35企画の応募から、第一次審査（書類審査）と第二次審査（プレゼン）を経て、17企画が採択された[2]。採択された企画は、6月から1月末までを企画実施期間として活動し、2月下旬に開催される成果発表会（平成28年度は、平成29年2月22日（水）に開催）で、ポスター発表を行い、活動の成果発表を行った。

２．調査の概要

１）調査の目的

調査の主な目的として、以下の２点を設定した。

【目的１】チャレンジ・プログラム参加学生の成長への考えを確認すること。

（具体的には、企画する力と実施する力を中心に、チャレンジ・プログラムでの活動を通して、自身の成長を感じられているか、また、今後も成長させていこうとする意欲を感じられているかを確認すること。）

【目的２】チャレンジ・プログラム事業として、参加学生の成長を、より促進するための事業改善の方法を検討するための情報を得ること。

２）調査の方法

上記の成果発表会において、以下の２つの質問紙調査（配付回収法）を実施した。

３）実施した調査

①企画を対象とした調査（調査票は資料１を参照）

成果発表会に参加した全17企画に、調査を依頼し、全企画から回答を得られた。

・調査の対象：採択された企画（17企画）
・回収数：17（有効票数：17）
・主な調査項目：企画の目的の達成状況、企画の新規／継続の別、今後の継続への考え、構成員数の変化、予算の使用状況など

②参加学生個人を対象とした調査（調査票は資料２を参照）

成果発表会に、各企画の発表者として参加した学生に調査を依頼し、69票の回答を得られた。

・調査の対象：成果発表会に発表者として参加した学生
・回収数：69（有効票数：69）
・主な調査項目：企画する力の成長（実感と意欲）、実施する力の成長（実感と意欲）、企画に参加した時期、企画内での役割など

３．調査の結果

１）企画を対象とした調査の結果

①企画の目的の達成状況

今年度の企画の活動として、企画の目的を「達成できた」とする企画が35.3％（6企画）、「一部達成できたが、達成できなかった部分もある」とする企画が64.7％（11企画）であった（表１）。どの企画も、企画の目的をある程度以上達成しており、達成できなかったとするところはなかった。

表１　企画の目的の達成状況　％（実数）

達成できた	一部達成できた	達成できなかった	計
35.3（６）	64.7（11）	0.0（０）	100.0（17）

②企画の新規／継続の別

今年度の企画が新規のものであるかどうかについては、「新規」の企画が58.8％（10企画）で、前年度までの企画を継承したものも41.2％（7企画）あるが、その全てが一部新規のものを加えて発展させており、単純に前年度までの企画を継続的に実施する企画はなかった（表２）。

表２　企画の新規／継続の別　　%（実数）

新規	一部新規	継続	計
58.8（10）	41.2（７）	0.0（０）	100.0（17）

③活動の今後の継続への考え

活動の今後の継続については、「チャレンジ・プログラムで採択されれば継続したい」とする企画が47.1％（8企画）、「チャレンジ・プログラムで採択されなくても継続できるように考えている」とする企画が47.1％（8企画）であった（表３）。また、「活動を終了する」とする企画も5.8％（1企画）あった。

表３　企画の今後の継続への考え　　%（実数）

採択されれば継続	不採択でも継続を検討	活動は終了	計
47.1（８）	47.1（８）	5.8（１）	100.0（17）

④企画の構成員数の変化

各企画で構成員の数がどのように変化したかについては、約6割の企画で活動期間中に人数が増えており、「途中で抜ける人もいたが、途中から加わる人の方が多かった」（表４中の「増えたB」）とする企画が35.3％（6企画）と最も多かった（表４）。逆に、人数が減った企画は少なく、2企画のみであった。

表４　企画の構成員数の変化　　%（実数）

変化なし	増えたA	増えたB	減ったA	減ったB	計
29.4（５）	23.5（４）	35.3（６）	5.9（１）	5.9（１）	100.0（17）

注）増えたA：途中で抜ける人はいなくて、途中から加わる人がいた
増えたB：途中で抜ける人もいたが、途中から加わる人の方が多かった
減ったA：途中から加わる人はいなくて、途中で抜ける人がいた
減ったB：途中から加わる人もいたが、途中から抜ける人の方が多かった

⑤予算の使用状況

予算の使用について、企画の採択時に配分された額で「ちょうどよかった」とする企画が52.9％（9企画）であった（表５）。これに対し、「配分された額では多すぎた」とする企画も35.3％（6企画）あり、そのうち5企画については、配分された額は適切であったが、活動の実施が不十分であったために、配分額では多すぎたということになっていた。逆に、「配分された額では足りなかった」とする企画も11.8％（2企画）あり、その理由として、計画よりも活動が発展・拡大したためとするのが1企画であった。

表５　予算の使用状況　　%（実数）

配分額でよい	配分額では不足	配分額では多い	計
52.9（９）	11.8（２）	35.3（６）	100.0（17）

２）参加学生個人を対象とした調査の結果

①企画する力の成長（実感と意欲）

各企画の活動を通して、94.2％と非常に多くの学生が成長したという実感を持っている（表６の上段）という回答であった。また、今後、自分の企画する力を成長させていきたいという意欲についても、94.2％と非常に多くの学生が意欲を感じているとの結果が得られた（表６の下段）。

表６　企画する力の成長（実感と意欲）　　%（実数）

	感じられる	感じられない	計
成長したと感じるか	94.2（65）	5.8（4）	100.0（69）
成長させていきたいと感じるか	94.2（65）	5.8（4）	100.0（69）

②実施する力の成長（実感と意欲）

実施する力についても、企画する力と同様に、各企画の活動を通して、91.4％の学生が成長したという実感を持っているという回答であった（表７の上段）。また、今後、自分の実施する力を成長させていきたいという意欲についても、94.3％と非常に多くの学生が意欲を感じていると回答した（表７の下段）。

表７　実施する力の成長（実感と意欲）　　%（実数）

	感じられる	感じられない	無回答	計
成長したと感じるか	91.4（63）	7.2（５）	1.4（１）	100.0（69）
成長させていきたいと感じるか	94.3（65）	4.3（３）	1.4（１）	100.0（69）

③その他の力の成長（実感と意欲）

企画する力や実施する力以外の力については、「コミュニケーション能力」が成長したと感じられると回答した学生が最も多く、66.7％であった（表８の左側の列）。次いで多かったのは、「チームワーク力」の55.1％と、「課題解決（発見）能力」の46.4％であった。「その他」としてあげられたのは、プレゼン能力、目上の

方との接し方、病気への理解（各１票ずつ）であった。

今後、成長させたいという意欲については、「リーダーシップ力」を成長させたいとする学生が最も多く、50.7％であった（表８の右側の列）。次いで、「コミュニケーション能力」の 40.6％であり、「チームワーク力」、「自己管理能力」、「課題解決（発見）能力」についても、すべて３分の１を上回っていた。「その他」としてあげられたのは、地域活性化に関する能力（1票）であった。

表８　成長したと実感している力と成長させたい力（複数回答）

％（実数）

	成長した（実感あり）	成長させたい（意欲あり）
コミュニケーション能力	66.7（46）	40.6（28）
リーダーシップ力	20.3（14）	50.7（35）
チームワーク力	55.1（38）	34.8（24）
自己管理能力	34.8（24）	37.7（26）
課題解決（発見）能力	46.4（32）	37.7（26）
その他	4.3（3）	1.4（1）

④企画内での役割

企画内で、リーダーや責任者などの中心的な役割を果たす場面があったかどうかについては、「あった」とする学生が 59.5％であった（表９）。

表９　企画内での役割

％（実数）

中心的な役割あり	中心的な役割なし	無回答	計
59.5（41）	39.1（27）	1.4（１）	100.0（69）

３）実感または意欲に否定の回答についての分析

企画する力と実施する力の成長に関しては、成長の実感、意欲ともに「感じられる」との回答が非常に多くの学生から得られたが、ここでは、いずれかに「感じられない」との回答があったもののみを取り出して、他の調査項目との関係をみていくことにしよう。個人を対象とした調査の集計対象 69 票のうち、表６と表７のいずれかで「感じられない」に該当するものは、11 票であった。その 11 票について、所属する企画の企画対象調査の回答や、個人対象調査の他の項目の回答がどのようになっていたかをまとめたものが表 10 である。

最も特徴的であったのは、表 10 で企画用調査の「新 / 継」の列の結果である。表２のところでみた、企画が新規のものであるかどうかについて、ここでの分析対象の 11 票すべてが「新規」の企画に所属するものであった。その他、予算の使用状況（表 10 の「予算」の列）については、表５でみた企画単位での結果と比べれば、「配分額では多い」（表 10 では「過多」と表記）と「配分額では不足」（表 10 では不足と表記）であるものの割合が高くなっているということができるであろう。

表１でみた企画の目的の達成状況（表 10 では目的の列）や表３でみた企画の今後の継続への考え（表 10 では今後の列）については、顕著な特徴を見いだすことができなかった。また、企画内で中心的な役割を果たす場面があったか（表９を参照）についても、必ずしも「なかった」学生だけに、成長の実感や意欲の否定回答が集中しているとはいえないようである（表 10 の役割の列）。表８でみた他の力の成長（実感

表10　「感じられない」の回答があったサンプルの他の項目の回答状況

	企画する力		実施する力		所属企画の企画用調査の回答				個人用調査の回答		
	実感	意欲	実感	意欲	目的	新／継	今後	予算	役割	他の実感	他の意欲
サンプル１	あり	**なし**	あり	**なし**	達成	**新規**	CP	適切	**なし**	３つ	１つ
サンプル２	あり	**なし**	あり	あり	達成	**新規**	CP	適切	あり	３つ	１つ
サンプル３	あり	**なし**	あり	**なし**	一部	**新規**	終了	**過多**	あり	２つ	１つ
サンプル４	**なし**	あり	**なし**	あり	一部	**新規**	CP	**過多**	あり	２つ	４つ
サンプル５	**なし**	あり	**なし**	あり	達成	**新規**	CP	**不足**	あり	１つ	３つ
サンプル６	**なし**	あり	あり	あり	達成	**新規**	CP 外	**過多**	**なし**	１つ	２つ
サンプル７	**なし**	**なし**	あり	あり	達成	**新規**	CP 外	**不足**	**なし**	２つ	２つ
サンプル８	あり	あり	あり	**なし**	達成	**新規**	CP	適切	あり	２つ	１つ
サンプル９	あり	あり	**なし**	あり	一部	**新規**	CP 外	**過多**	**なし**	２つ	５つ
サンプル 10	あり	あり	**なし**	あり	一部	**新規**	CP 外	**過多**	**なし**	１つ	３つ
サンプル 11	あり	あり	**なし**	あり	達成	**新規**	CP 外	**過多**	あり	３つ	２つ

と意欲）については、11 票すべてで、最低１つ以上の実感や意欲があるとの回答となっており、企画する力と実施する力を含めて、何らかの力については、全ての学生が成長の実感や意欲を持てているという結果であった。

４．まとめと今後の課題

第一の目的であったチャレンジ・プログラム参加学生の成長への考えを確認することについては、いずれの学生もいくつかの力について、成長への実感および今後の成長への意欲を感じているという結果が得られた。特に、企画する力と実施する力については、成長の実感、意欲ともにいずれも 90％を超える高い比率となっていた。ただし、今回の調査は、チャレンジ・プログラムに参加した学生の中でも、最後の成果発表会にまで参加した学生のみを対象としているため、成長の実感や意欲についても、高い値に傾いている可能性は否定できない。また、その成長の実感や意欲の度合いについてまで調査することはできていない。今後は、調査対象の取り方や、調査の時期、回数、より詳細な設問など、調査設計の工夫を行いながら、さらなる調査を実施することが課題となる。

第二の目的であったチャレンジ・プログラム事業として、参加学生の成長を、より促進するための事業改善の方法を検討するための情報を得ることについては、企画する力と実施する力の成長の実感と意欲について、否定の回答が新規の企画に集中していたことから、今後は、新規の企画への対応のあり方についての検討が重要となることが明らかとなった。また、予算の使用状況が、学生の成長が思うように進んでいない場合の１つのサインとなる可能性があるようである。今回の調査では、非常に多くの学生が、成長の実感と意欲を感じている結果になったため、逆に、感じている学生と感じていない学生の違いを明らかにすることが難しくなってしまったところもあった。今回の調査からは、チャレンジ・プログラムによって、学生の成長をより促進するためには、成長を感じられてない学生を感じられる学生へと引き上げる（感じている学生数を増やす）ことに加えて、成長を感じている学生の成長の内容や度合いなどについても検討することの必要性が高まっているということがいえそうである。

注

1) 平成 28 年度「とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム」募集要項より抜粋。
2) 企画の募集は、5 月初旬を応募の締切とし、その後、5 月中に審査を行い、採択企画を決定した。

資料１　調査票（企画用）と単純集計結果

チャレンジ・プログラムの成果検証と今後の改善のための調査（企画用）

平成 29 年 2 月
教育･学生支援センター(高橋)

企画名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問１　みなさんの今年度の企画の活動は、**企画の目的**を達成できましたか（あてはまるところに○を１つ)。

１．達成できた　２．一部達成できたが、達成できなかった部分もある　３．達成できなかった
35.3%（6）　64.7%（11）　0.0%（0）

問２　みなさんの今年度の企画の活動は、これまでとは違った**新規**のものでしたか（あてはまるところに○を１つ)。
58.8%（10）　41.2%（7）
１．新規のものだった　２．前年度までの企画を継承したものであるが、一部新規のものを加えて発展させた
３．前年度までの企画を継承して、継続的に実施したものだった
0.0%（0）

問３　みなさんの今年度の企画の活動は、企画の**構成員の成長**に役立つものでしたか (あてはまるところに○を１つ)。

１．役立つものだった　２．役立つはずだか、十分に活かせなかった　３．役立つものではなかった
76.5%（13）　23.5%（4）　0.0%（0）

問４　みなさんの今年度の企画の**構成員の数**は、どのように変化しましたか（あてはまるところに○を１つ)。

１．企画の申請時から変化がなかった（途中で抜ける人も途中から加わる人もいなかった）　**29.4%（5）**
２．企画の申請時よりも増えた（途中で抜ける人はいなくて、途中から加わる人がいた）　**23.5%（4）**
３．企画の申請時よりも増えた（途中で抜ける人もいたが、途中から加わる人の方が多かった）　**35.3%（6）**
４．企画の申請時よりも減った（途中から加わる人はいなくて、途中で抜ける人がいた）　**5.9%（1）**
５．企画の申請時よりも減った（途中から加わる人もいたが、途中から抜ける人の方が多かった）　**5.9%（1）**

問５　みなさんの今年度の企画の**構成員の所属**（学部・研究科と学年）は、どのようなものでしたか（a.企画の申請時（平成 28 年 5 月）と b.活動の終盤（平成 29 年 1 月）のぞれぞれについて、あてはまるところに○を１つずつ)。
注：工学部と工学研究科、農学部と農学研究科などは単一の学部・研究科として回答してください。

a.【企画の申請時】
１．単一の学部・研究科の同一学年のみの構成員だった（例：教育文化学部の 3 年生のみ）
２．学部・研究科は単一であるが、学年は複数学年で構成されていた（例：工学部 4 年生と工学研究科 1 年）
３．同一学年のみであるが、学部・研究科は複数で構成されていた（例：農学部 3 年と工学部 3 年）
４．学部・研究科も学年も複数で構成されていた（例：地域資源 1 年生と医学部 3 年生、農学部 4 年生）
１．29.4%（5）　２．47.1％（8）　３．0.0%（0）　４．23.5%（4）

b.【活動の終盤】
１．単一の学部・研究科の同一学年のみの構成員だった　**17.6%（3）**
２．学部・研究科は単一であるが、学年は複数学年で構成されていた　**35.3%（6）**
３．同一学年のみであるが、学部・研究科は複数で構成されていた　**5.9 %（1）**
４．学部・研究科も学年も複数で構成されていた　**35.3%（6）**　**無回答 5.9%（1）**

（裏面につづく）

問６　企画の**予算**についてお聞きします。a と b のそれぞれについて、あてはまるところに○を１つずつ記入してください。

１．52.9%（９）２．11.8％（２）３．35.3%（６）

a.【予算の使用について】

１．配分された額でちょうどよかった　→　問７へ

２．配分された額では足りなかった　→　右の b1.へ

３．配分された額では多すぎた　→　下の b2.へ

１．50.0%（１）２．0.0％（０）３．50.0%（１）

b1.【不足した理由】

１．計画よりも企画が発展し、活動が拡大した

２．計画が不十分で、必要な額の申請ができなかった

３．その他（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

b2.【多すぎた理由】

１．計画通りに実施できない活動があった（予算は適切だったが、活動の実施が不十分だった）

２．必要以上に配分額が得られた（計画が不十分で、申請時に過大な予算要求をした）

３．その他（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

１．83.3%（５）２．0.0％（０）３．16.7%（１）

問７　活動の**今後の継続**についてどのように考えていますか（あてはまるところに○を１つ）。

１．チャレンジ・プログラムで採択されれば継続したい　**47.1%（８）**

２．チャレンジ・プログラムで採択されなくても継続できるように考えている　**47.1%（８）**

３．活動は終了する　**5.8%（１）**

問８　みなさんの企画全体として、①～④のそれぞれの力について、a.企画の申請時（平成 28 年 5 月）の状態と、b.活動の終盤（平成 29 年１月）の状態を自己評価すると、どのように感じていますか（ぞれぞれについて、あてはまるところに○を１つずつ）。

	a.【企画の申請時】	b.【活動の終盤】
①企画する力	１．十分に備わっていた ２．ある程度備わっていた ３．不足していた	１．十分に備わっている ２．ある程度備わっている ３．不足している
	１．11.8%（２）２．58.8％（10）３．29.4%（５）	**１．47.1%（８）２．47.1％（８）３．5.8%（１）**
②実施する力	１．十分に備わっていた ２．ある程度備わっていた ３．不足していた	１．十分に備わっている ２．ある程度備わっている ３．不足している
	１．5.9%（１）２．58.8％（10）３．35.3%（６）	**１．23.5％（４）２．58.9％（10）３．17.6%（３）**
③コミュニケーション能力	１．十分に備わっていた ２．ある程度備わっていた ３．不足していた	１．十分に備わっている ２．ある程度備わっている ３．不足している
	１．35.3%（６）２．52.9％（９）３．11.8%（２）	**１．76.5%（13）２．23.5％（４）３．0.0%（０）**
④課題解決（発見）能力	１．十分に備わっていた ２．ある程度備わっていた ３．不足していた	１．十分に備わっている ２．ある程度備わっている ３．不足している
	１．23.5%（４）２．53.0％（９）３．23.5%（４）	**１．58.8%（10）２．35.3％（６）３．5.9%（１）**

ご協力ありがとうございました。

資料２　調査票（個人用）と単純集計結果

チャレンジ・プログラムの成果検証と今後の改善のための調査（個人用）

平成 29 年 2 月
教育･学生支援センター(高橋)

問１　あなたは、チャレンジ・プログラムに採択された活動を通して、企画する力の成長に関して、どのように感じていますか。以下のａとｂのそれぞれについて、あてはまるところに○を１つずつ記入してください。

a.【企画する力の成長】活動を通して、自分の企画する力は成長したと感じますか
１．感じられる（感じている）　２．感じられない（感じていない）
94.2%（65）　5.8%（４）

b.【企画する力の成長への意欲】今後、自分の企画する力を成長させていきたいと感じますか
１．感じられる（感じている）　２．感じられない（感じていない）
94.2%（65）　5.8%（４）

問２　あなたは、チャレンジ・プログラムに採択された活動を通して、実施する力の成長に関して、どのように感じていますか。以下のａとｂのそれぞれについて、あてはまるところに○を１つずつ記入してください。

a.【実施する力の成長】活動を通して、自分の実施する力は成長したと感じますか
１．感じられる（感じている）　２．感じられない（感じていない）
91.4%（63）　7.2%（５）　無回答 1.4%（１）

b.【実施する力の成長への意欲】今後、自分の実施する力を成長させていきたいと感じますか
１．感じられる（感じている）　２．感じられない（感じていない）
94.3%（65）　4.3%（３）　無回答 1.4%（１）

問３　あなたは、チャレンジ・プログラムに採択された活動を通して、企画する力や実施する力以外に、自分が成長したと実感していることがありますか。あてはまるところに○を記入してください（○はいくつでも）。

66.7%（46）　20.3%（14）　55.1%（38）　34.8%（24）
１．コミュニケーション能力　２．リーダーシップ力　３．チームワーク力　４．自己管理能力
５．課題解決（発見）能力　６．その他（具体的に　　）
46.4%（32）　4.3%（３）

問４　あなたは、チャレンジ・プログラムに採択された活動を通して、企画する力や実施する力以外に、今後、自分が成長させたいと感じていることがありますか。あてはまるところに○を記入してください（○はいくつでも）。

40.6%（28）　50.7%（35）　34.8%（24）　37.7%（26）
１．コミュニケーション能力　２．リーダーシップ力　３．チームワーク力　４．自己管理能力
５．課題解決（発見）能力　６．その他（具体的に　　）
37.7%（26）　1.4%（１）

問５　あなたは、今年度のチャレンジ・プログラムの活動に、どのように参加しましたか。以下のａとｂのそれぞれについて、あてはまるところに○を１つずつ記入してください。

a.【参加した時期】　１．スタートから参加していた　２．途中から参加した　→（＿＿＿）月くらいから
85.5%（59）　14.5%（10）

b.【企画内での役割】中心的な役割(リーダーや責任者など)を担う場面が　１．あった　２．なかった
無回答 1.4%（１）　59.5%（41）　39.1%（27）

問６　次年度以降のチャレンジ・プログラムをよりよいものとするために、改善のアイディアや今年度の活動で困ったこと、参加した感想など、ご自由にお書きください。

Q.あなたの所属等について　【所属】（　　）学部／研究科　（　　）年　【性別】　男 ・ 女

ご協力ありがとうございました。